

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
保健指導論		必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
伊丹 幸子	304	s.itami	月曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	人々が自らの健康状態を理解し、より健康的な日常生活を送る上で必要なセルフケア能力を高めるための保健・看護の知識や技術を獲得し、自ら健康管理の実践を行えるようにするための保健指導・健康教育の理論と技術を学ぶ。また、健康問題を抱える人々の疾病からの回復を図り、病状の悪化を防ぐことを目的とした療養指導とその実践について学び、療養生活の質を高める保健指導の方法を修得する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	実習で対象者に保健指導ができるように主体的に授業に参画すること				
教科書	ナンゲル・ガワカ 地域・在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア 第7版 /編:臺由佳 他 /メディカ出版 /2022				
参考書	最新公衆衛生看護学 第3版 2024年版 総論、各論1、2 編:宮崎美砂子ほか/日本看護協会出版 厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2020/2021/厚生労働統計協会				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	セルフケア能力を高めるための保健・看護の意義を理解できる。		NS(1)~(5)		
②	看護における保健指導・健康教育の目的を説明できる。		NS(1)、(4)		
③	保健指導・健康教育の基盤となるヘルスプロモーションの考え方を説明できる。		NS(2)、(3)、(5)		
④	看護の対象の健康課題を見出し、セルフケア能力を高める保健指導・健康教育の企画案が作成できる。		NS(4)		
⑤	セルフケア能力を高めるための保健指導が実施および評価できる。		NS(3)、(4)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション・ポートフォリオ作成の説明 保健指導・健康教育の目的と理論	講義・演習	今まで自分が受けた保健指導・健康教育について調べる。自らの3日間の食事表を作成する。	4	
2	保健指導・健康教育と看護実践	講義・演習	保健指導の原則、セルフケアの理論について調べる。	4	
3	保健指導の方法と特徴①	講義・演習	看護師が保健指導を行う場面について調べる。	4	
4	保健指導の方法と特徴②	講義・演習	保健指導をするとき、看護師の配慮すべきことを調べる。	4	
5	保健指導の方法と特徴③	講義・演習	退院指導の計画を立てる。	4	
6	事例から学ぶ保健指導①	講義・演習 グループワーク	退院指導のシナリオを作成する。	4	
7	事例から学ぶ保健指導②	講義・演習 グループワーク	退院指導のときに活用できる媒体を調べる。	4	
8	事例から学ぶ保健指導③・まとめ	講義・演習 グループワーク	退院指導の評価方法を調べる。	2	
試	定期試験・ポートフォリオ提出				

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

		達成度評価						
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	30	0	0	30	10	100	
	思考・推論・創造する力	20	0	0	10	0	30	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	10	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
	問題を発見・解決する力	10	0	0	10	0	20	
		評価のポイント					フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①	✓	定期試験：基本的な知識と理論に関する考え方について問う。					メールで回答の解説を送付する。
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
ポートフォリオ	①	✓	課題や記録物等を適切な収集・整理ができ、保健指導に対しての学びについてまとめることができる。					コメントして返却する。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
その他	①	✓	出席日数と課題提出等総合的に評価する。出席日数と日々の受講態度、演習の取り組み姿勢を総合的に評価する。					問題が生じた場合は、個別に面接を行う。
	②							
	③							
	④							
	⑤							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教 員 の 実 務 経 験	保健師として山梨県に35年勤務し、県職保健師として県庁、保健所、児童相談所、市町村保健師業務を経験し、実際の数多くの保健指導を実施している。							
実 践 的 授 業 の 内 容	保健所・市町村における行政保健師活動の実務経験を元に内容を構築し、保健指導公衆衛生看護について理解を深める。教員の経験からさまざまな事例を取り上げ、教科書と比較しながら学習する。							
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回対面授業に出席し、積極的な態度で授業に臨むことを重んじる。原則として理由のない欠席はしないよう心がけること。 ・学生の理解度に応じ、対面授業の速度や順番を調整する可能性がある。 ・教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 ・状況により Teams を使った同双方向型授業を実施する場合は通信容量無制限の Wi-fi 環境を推奨する。 							